

A
Program

義経千本桜
新版歌祭文

よしつねせんばんざくろ

道行初音旅

しんばんうたぎいもん

野崎村の段

人形浄瑠璃

文楽

京都公演

B
Program

曾根崎心中

近松門左衛門没後三〇〇年 野澤松之輔II脚色・作曲

そねざきしんじゅう

天神森の段

澤村龍之介II振付

天満屋の段

生玉社前の段

前売券発売日

12/6[土]10時~

友の会先行発売

11/22[土]10時~

写真 青木信二

2026年

3月20日[祝・金]・21日[土]

Program A 11:00~

Program B 11:00~

Program B 15:00~

Program A 15:00~

京都府立文化芸術会館ホール

[602-0858 京都市上京区河原町通広小路下ル/市バス「府立医大病院前」下車スグ前]

入場料 一般5,000円[友 4,500円]/学生3,000円[友 2,500円]

A・Bセット券※前売のみ 一般8,000円[友 7,500円]/学生4,500円[友 4,000円]

●友は文化芸術会館友の会割引料金※前売のみ ●セット券・友の会割引は文化芸術会館のみ取り扱い

●京都府立文化芸術会館 ☎075-222-1046

●窓口購入・電話予約(要来館でのご精算)のみ/代金引換郵便は友の会会員様のみ

●チケットぴあ <https://t.pia.jp/> (Pコード:537-823)

セブンイレブン各店内のマルチコピー機にてお受け取り・直接購入

●ローソンチケット <https://l-tike.com/> (Lコード:56171)

ローソン/ミニストップ各店内のLoppiでお受け取り・直接購入

チケット取扱所

●全席指定

●日時指定

●A・Bセット券割引は

同時購入時のみ有効

●当日は各500円増

●学生券は大学生以下

※要学生証

文楽
BUNRAKU
不可分割文化遺産
Inseparable Cultural Heritage

文楽
BUNRAKU

主催 指定管理者 創・(公財)文楽協会

助成 文化庁文化芸術振興費補助金

(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))

独立行政法人 日本芸術文化振興会/朝日新聞文化財団

お問合せ/京都府立文化芸術会館 ☎(075)222-1046 [受付時間 9時~18時/休館日有り(月2回)/12月28日~1月4日は休館]

プログラムA 3月20日祝金11時／21日土15時／上演時間2時間15分

解説（あらすじを中心に）

義経千本桜

道行初音旅

静御前 竹本 織太夫
忠信 豊竹 靖太夫
ツレ 竹本 咲寿太夫
鶴澤 清志郎
鶴澤 清 丈
鶴澤 燕 二 郎

（人形役割）

静御前 吉田 蓑二 郎
狐忠信 吉田 玉 助

竹本 織栄太夫

新版歌祭文

野崎村の段

中 竹本 小住太夫
野澤 錦 吾
前 豊竹 靖太夫
豊澤 富 助
後 竹本 織太夫
野澤 勝 平
ツレ 鶴澤 燕 二 郎

（人形役割）

娘おみつ 吉田 一
久三の小助 吉田 玉
丁稚久松 吉田 玉
親久作 吉田 玉
娘お染 吉田 紋
下女およし 吉田 玉
駕籠屋 吉田 玉
駕籠屋 吉田 和
油屋お勝 吉田 勘
船頭 桐竹 紋 吉 壽 馬 路 延 臣 也 佳 勢 輔

囃子 望月太明藏社中

プログラムB 3月20日祝金15時／21日土11時／上演時間2時間00分

解説（あらすじを中心に）

近松門左衛門没後三〇〇年

野澤松之輔 脚色・作曲

曾根崎心中

生玉社前の段

豊竹 睦太夫
鶴澤 清 丈

（人形役割）

豊竹 芳穂太夫

天満屋の段

豊竹 藤太夫
鶴澤 燕 三

天神森の段

澤村龍之介 振付
お初 豊竹 芳穂太夫
徳兵衛 竹本 小住太夫
竹本 織栄太夫
野澤 錦 糸
野澤 勝 平
鶴澤 清 允

手代徳兵衛 吉田 玉 男
丁稚長蔵 吉田 玉
天満屋お初 吉田 和 彦
油屋九平次 吉田 玉
田舎客 吉田 蓑 悠
遊女 吉田 玉 翔
遊女 吉田 玉 誉
天満屋亭主 吉田 亀 次
女中お玉 吉田 玉 勢
町衆 大 玉 勢
見物人 大 ぜ い
囃子 望月太明藏社中

◎A・B両プログラム共、字幕表記がございます。 ◎出演者の急病やその他やむを得ない事情により、代約もしくは演目を変更して上演する場合がございます。あらかじめご了承ください。

■義経千本桜

道行初音旅

浄瑠璃三大傑作のひとつで、人形浄瑠璃の全盛期、延享四年（一七四七）に大坂の竹本座で初演された、二代竹田出雲、三好松洛、並木千柳合作の五段の時代物。四段目の、満開の桜を背景にした道行は、道行の最高傑作とされ、目も耳も圧倒される極めて華麗な舞台です。

平家滅亡後、兄源頼朝に追われる義経が吉野にいと知った愛妾静御前は、義経の忠臣佐藤忠信に伴われ、吉野へ。道中、義経から与えられた鼓を静が打つと、必ずどこからともなく姿を現わす忠信。その正体は狐…。

忠信がどう登場するか、また静から忠信への豪快な扇の投げ渡し、見どころです。

■新版歌祭文

野崎村の段

歌祭文によって世間に広まった、大坂の油屋の娘お染と丁稚久松の心中（二七一〇）。この事件から生まれた多くの作品中、最も有名で人気のある、近松半二の二巻の世話物で、安永9年（一七八〇）、竹本座初演。大阪府大東市を舞台とする上の巻の「野崎村」には、それまでのお染久松物にはなかった新たな悲恋がみごとに描かれています。

野崎村の百姓久作が縁あって育てた久松は、久作の妻の連れ子おみつのいいなずけ許婚でありながら、奉公先の娘お染と恋仲。決して許されない主従の恋を危ぶんだ久作は、久松が実家へ戻されたのを幸い、すぐにおみつと結婚させることに。諦めかけていた祝言が、突如、現実のものとなり、おみつは大喜び。

一方、この恋が叶わぬときには死ぬ覚悟で、久松のあとを追って来たお染。久松も心中を決意。けれども、人の道に背くこの恋を諦めるよう、久作に諭され、心ならずも別れを約束しました。二人を死なせたくない、おみつを幸せにしたい、その願いが叶ったと久作が喜んだのも束の間、花嫁姿のおみつは、実はすでに髪を切り、俗世を捨てた尼に。二人の本心は心中と見抜き、命を助けるため二人を添わせようと、自身の幸せを諦めたのです。

悲しみから一転、段切は、名曲として知られる旋律を三味線が連れ弾きで華やかに奏で、人形が笑いを誘います。

■曾根崎心中

生玉社前の段・天満屋の段・天神森の段

元禄十六年（一七〇三）、露天神社（大阪市北区）で起きた心中事件を題材として、その一月後に竹本座で初演され、大好評を博した近松門左衛門の世話物第一作。それまで歴史や伝説といった過去の物語のみを題材として来た浄瑠璃に、同時代の身近な事柄を描く新分野「世話物」を確立した、画期的な作品です。現在上演されているのは、一九五五年に、野澤松之輔の脚色・作曲により大阪の四ツ橋文楽座で復活上演されたもので、原作のままではありませんが、海外での評価も高く、文楽を代表する演目となっています。醬油屋の手代徳兵衛は、天満屋の遊女お初との愛を貫くため、主人からもちかけられた縁談を断固として拒絶。激怒した主人に命じられたのは、継母が知らぬ間に話を決めて受け取っていた持参金を返すこと、そして、大坂追放でした。お初に会えなくなる危機。継母から取り戻した金を早く返して、主人の気持ちと和らげたい…。ところが、その大切な金を友人の九平次にだましとられたうえ、衆人環視の中、証文偽造の罪を着せられ、打ちのめされるはめに。金も面目も失い、もはや生きてはいられなくなりました。

その夕方、天満屋では、早くも徳兵衛の噂でもちきり。お初は、店の外で死の覚悟を告げる徳兵衛を襦袢の裾に隠し、ひそかに店の縁の下に忍び込ませます。九平次の中傷に怒りで身を震わせる徳兵衛。一緒に死ぬとの言葉とともに足で返事を促すお初。徳兵衛はその足を押し戴いて涙。このように、誰にも気づかれず、足で心を確かめあった二人は、深夜、店を抜け出し、曾根崎の天神の森で心中しました。

縁の下と女性の足を見せる演出が独特の「天満屋」。「この世の名残、夜も名残…」、名文と讀えられた「天神森」の道行。哀しくも美しい心中場面。二人の心情がまっすぐに伝わって来る舞台です。

会場案内

京都市上京区河原町広小路下ル
TEL. 075(222)1046



- 【JR京都駅から】
市バス4系統・7系統・205系統
【四条河原町から】
市バス3系統・4系統・7系統・205系統
【三条京阪から】
市バス37系統・59系統
【京都バス】
21系統・41系統にて京阪「出町柳」駅経由
※いずれも「府立医大病院前」バス停下車スグ前

- 京阪電車
「出町柳」駅もしくは「神宮丸太町」駅から徒歩約12分

※駐車スペース(有料170円／30分)に限りがございますので、公共交通機関をご利用いただきますようお願いいたします。